【樹木の部屋】

セイヨウキズタ（ウコギ科キズタ属 Hedera helix ）

和名：セイヨウキヅタ(西洋木蔦)、ヘデラ　別名：アイビー　英名：ivy

セリ目　常緑蔓性木本　原産地：アフリカ、ヨーロッパ

花言葉：永遠の愛、友情、不滅、結婚、誠実　花色：黄

←↓ 写真-１ セイヨウキズタ
撮影日：2018 年 2 月 22 日
撮影場所：アルコバサ修道院
(ポルトガル)にて
撮影者：M　さん

→ 写真-２ セイヨウキズタの果実
撮影日：2018 年 2 月 22 日
撮影場所：アルコバサ修道院
(ポルトガル)にて
撮影者：M　さん

ポルトガル南部の街、アルコサバにあるサンタ・マリア・デ・アルコサバ修道院(世界遺産)、略称アルコサバ修道院を訪れた際に見かけました。日本国内でも、よく観られる植物です。

セイヨウキヅタは、 常緑の蔓植物であり、蔓は気根を出しながら育ち、崖や壁などによじ登って成長し、垂直面以外の場所でも地面を覆うようにして成長します。樹齢を重ねると黒褐色になり、木質となるためキヅタ(木蔦)と呼ばれるようになったそうです。

葉は普通、互生ですが、対生になることもあるそうです。若葉のときは掌状で５裂しますが、成葉になると切れ込みが見られず心臓のような形となります。葉の表面は光沢のある濃緑色で裏面は淡い黄緑色で縁は波打ちます。若いキヅタの葉は浅く裂けて３～５角形になりますが、古い株の葉は菱形に近い卵形で裂け目はなく、先端が鈍く尖り、葉には長さ数センチほどの柄があります。

開花は秋～冬。花序は散形総状花序で、枝先に５弁花の小花が多数集まり球状の外観をつくります。花弁の色は緑色または黄色で目立たず、また小さいため装飾的

な価値は殆どないそうです。雌雄同株で花には５本の雄蕊と雌蕊があり、雄蕊は花弁から長く突き出し、雌蕊は花盤と呼ばれる花の中央部でわずかに膨らみます。
　果実は、冬の終わり頃に橙黄色から紫黒色に成熟します。鳥の食べ物が少なくなる冬に実るため、野鳥にとって貴重な食料源となっているそうそうですが、人間にとっては有毒だそうです。一方、果実には種子が５個あり、鳥に食べられることにより、広範囲に種子が散布されるそうです。
　古い建物の壁を覆うセイヨウキズタの姿は、人工物と自然の境界が曖昧になるため美しい景観がつくられ、また優れた断熱効果があり急激な温度変化を抑制するため夏場の冷房費などを節約する事が出来ます。
ただし気根は壁面に浸透したり接着するため、それだけでも壁面を劣化させる可能性があり、またその欠陥を蔓が隠すため修理が出来なかったり、また剥がす時は壁面が壊れたり根が残ってしまい汚れる事が予想されます。そのため、永続的に這わせる場合を除きワイヤーやパネル(登ハンマット)等を利用して壁面を保護して上げる方が良いかも知れません。また、剥がす前に事前にツルを根元から切って置くと徐々に気根(付着根)が劣化するため、壁面より剥がしやすくなるそうです。

＜ ちょっと一言 ＞

＊散形総状花序
・総状に散形花序が並び、散形花序は花(小花)が多数集まり球状の外観をつくります
＊気根(付着根)
・地上部の茎から伸びる根（気根）のうち、他の植物や物体に張り付き、植物体を支える気根(付着根)の事をさしています。茎から出る根は、浸透もしくは付着して物体に張り付き体を固定します。
＊ツルや葉を含む全草の汁液にアレルギー性物質を含みます。
・これに触れると皮膚のかぶれを起こし、誤飲すれば嘔吐、下痢、腹痛などの症状を引き起こす可能性があり、要注意です。
・人だけではなく猫や犬にとっても有毒なため、誤って食べないように注意する必要があるそうです。